

# 市教委回答

## 授業公開の実施主体は学校 教育に強制はなじまない

泉北教組は、3月3日に和泉市教育委員会と交渉を行いました。泉北教組が事前に提出した「要求項目」、和泉市教委の交渉前「文書回答」、交渉の場での「最終回答」は以下の通りです。

### 「一」和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開実施要綱

「要求項目」「平成28年度和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開実施要綱」を撤回すること。  
「文書回答」撤回は考えていません。  
「要求項目」前回泉北教組への回答「内容については学校や地域の実情に応じて各学校が決定する。新しい取組みでもよいし、

既存の取組みをこれに位置づけてもよい。」を再確認すること。

「文書回答」公開する際の内容については、各学校で決定するものです。

「最終回答」「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」は、和泉市教委が各学校に実施を指示したものであるが、実施主体は各学校である。

### 【資料】

#### 「習熟度別指導」に関して、大教組に対する府教委の説明と回答（2015年12月18日）の一部

「教科や単元によっては、同一学級内での習熟度別学習も、習熟度別指導の一形態とみなす。」

「同一学級内で、授業時間の途中から習熟度別学習を取り入れた場合、『習熟度別指導』1時間とカウントしてもよい。（たとえば、ローマ字やそろばんの授業の後半に、習熟度別学習を取り入れた場合など）」

「習熟度別の時数、習熟度別指導の割合を記入するように求めているが、『～時間以上』や『～%以上』などの基準を学校に押しつけるものではない。子どもの実態、学校・地域の実情に応じて、現実的な数字の記入を求めている。」

### 「一」指導方法の工夫改善定数の配置

「要求項目」「資料」にあるように、「習熟度別指導」の具体的な方法については、各学校の自主性を尊重すること。特定の方法への書き換えを押しつけないこと。  
「文書回答」学校が、PDC Aサイクルに基づき、取組みを行っていく上で、効果的な活用となるよう指導助言を行っていく。

「要求項目」「資料」にあるように、数値目標の記入を強制しないこと。

「文書回答」加配教員の配置による効果を検証するための指標の一つとして記入してもらっているものである。

### 「最終回答」

「指導方法の工夫改善」の目的は学力向上で、その方法にはT・T・単純2分割指導もあり、習熟度別分割指導もその方法の一つである。

「習熟度別分割指導が全体の30%以上」との指導には、時間内の一部分割や同教室内での分割を含むのは、大教組と府教委の確認通りである。

習熟度学習が効果があるとのアンケート結果による定性的分析資料はあるが、今在籍している子どもたちについて習熟度別指導を行っていない場合との比較・分析した資料はない。



来年度、指導担当者の研修（意見交換を含む）する機会を設ける予定である。

### 「一」中学校 統一テスト

「要求項目」今後「統一テスト」を実施しないよう市町村教委から府教委に働きかけること。とりわけ、新3年「統一テスト」の実施を行わないように働きかけること。

「文書回答」そのように働きかけることは考えていない。

「要求項目」今後「統一テスト」に市町村教育委員会として参加しないこと。とりわけ、6月23日の3年「統一テスト」に参加しないこと。

「文書回答」不参加は考えていない。

「要求項目」「統一ルール」に従って中学1年・2年の調査書評定の是正を強制しないよう、府教

委に強く働きかけること。  
「文書回答」そのように働きかけることは考えていないが、そのような声があることは伝えたい。  
「要求項目」貴教育委員会から各中学校調査書評定の是正を強制しないこと。

「文書回答」「統一ルール」に従って実施するものである。

### 「最終回答」

学校の評定・調査書評定とも、『目標基準評価』に移行することは当然の方向であり、府教委が基準を示すことは必要である。

学校の評定と調査書評定が一致することが望ましいが、決定するのは各学校である。府教委の統一ルールを各学校に強制できないし、ルール通りに行われたか検証はできない。  
統一テストについては、検証が必要と考える。

### 「一」交渉全体を通して

「最終回答」教育に強制はなじまない。

教職員の生活と権利を守るため、泉北教組に加入してください。